with atré

アトレとともに未来へつなぐ

HERALBONY Art Prize 2025 JR東日本賞作品『つながる風景』生田 梨奈子

撮影：アトレ竹芝 タワー棟 3F シンガポール・シーフード・リパブリック東京

「アトレ サステナビリティアワード2025」において、栄えある賞を受賞した代表者4名と、代表取締役社長 髙橋弘行による座談会を開催いたしました。今回のアワードを踏まえ、本セッションでは、各取り組みが「アトレらしい日常」として全社へ根付き始めた空気感を共有。最先端の「知恵（AI）」と現場の「温かい感性」を融合させた人間中心のDXや、お客様が主役となる参加型企画がもたらす「一生もののファンづくり」、そしてビジネスとして持続する「無理のない循環モデル」など、2030年のスタンダード構築に向けた多角的な未来像が熱く語られました。

Sustainability Open Session

atré Sustainability Award 2025 winner

［グランプリ］
総合企画部
三瓶 賢哉

［社会部門賞］
アトレ新浦安
田中 加奈子

［環境部門賞］
アトレ松戸
吉川 早紀

［人部門賞］
アトレ竹芝
小暮 健人

dialogue

100の街と響きあう。地域と共に未来を創り、サステナビリティをアトレの原動力に

facilitator

株式会社アトレ
代表取締役社長
髙橋 弘行

1967年生まれ。90年に東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）に入社。総務や経営企画、営業の各部門を経て、東京支社営業部長、本社営業部次長を歴任し、2017年に株式会社びゅうトラベルサービス代表取締役社長就任。19年にJR東日本執行役員営業部長、21年にJR東日本常務執行役員を経て、23年6月から現職。

変化の兆し

はじめに―サステナビリティを「アトレのDNA」へ

社長：皆さん、この度は「サステナビリティアワード2025」での各賞受賞、誠に素晴らしい成果であり、心からお祝いを申し上げます。今年度のアワードは、エントリー数が昨年度の約2倍となる「95件」へと飛躍的な伸びを遂げました。この数字が意味するものは極めて大きいと感じています。サステナビリティという概念が、決して「一部の熱心な担当者による特別な仕事」ではなく、全社一人ひとりの「当たり前の文化」、すなわちアトレのDNAとして深く根付きつつある何よりの証左だからです。私たちが掲げる『with atré ― アトレ「と」ともに未来へつなぐ』というメッセージが示す通り、皆さんが現場で蒔いた種は、単発のイベントに留まることなく、街の日常を豊かに彩る持続的な「原動力」へと進化しています。特に2025年度は、生成AIという最先端の「知恵」を全社的な土台としつつ、現場においては極めてアナログで温かみのある活動が力強く進化しました。この「デジタルとアナログの融合」が、アトレの未来をどのように切り拓いていくのか。本日は、各分野の代表選手である皆さんと、大いなる情熱と本音をもって縦横無尽に語り合いたいと思います。

THEME 01

「特別な活動」から「アトレらしい日常」へ

サステナビリティの自分ごと化

社長：最初のテーマとして、今回の活発なエントリー状況や皆さんの実践を通じて、周囲の社員やステークホルダー、あるいはお客様の間にどのような「空気感や意識の変化」というポジティブな兆しを感じておられるか、それぞれの取り組みを交えながらお聞かせください。

三瓶：AIの導入と定着化を進める中で、最も大きな変化は「社外のステークホルダーがアトレを見る目」が劇的に変わったこと、推し進めたプロジェクト

が大きな反響を呼んだことです。今回、私たちの全社導入のスピード感と浸透の深さに対し、協業パートナーであるソフトバンク様から極めて高い評価をいただき、共同でのプレスリリース発信に至りました。そこから、ソフトバンク様の公式Webサイトへの好事例掲載や、大規模カンファレンス「Google Cloud Next Tokyo」のソフトバンク様ブースでの登壇をはじめ、この半年間にわたって同業のショッピングセンターのDXを手掛けられている方々や、JAL様など業界の枠を超えた数十社に及ぶ先進企業と意見交換を行う機会を得ました。専門家から技術論を聞くよりも、「実際に導入し、現場でどう苦労して、どう定着させたのかというリアルな声を聞きたい」というニーズが非常に多くありました。1年前には世間的にもまだ遠い存在だったAIが、今やCMでも流れ、皆さんのスマホの中にもある身近なものになっています。他社がまさに今動き始めているタイミングに対して、私たちのスピード感は非常に早かったですし、注目度が高まっていることを肌で感じています。

田中：新浦安店における「おしごとキッズラボ」を通じて感じた変化は、「営業部全員が同じベクトルを向いたこと」と「地域のお客様の期待値が可視化されたこと」です。この取り組みに関しては、エリアマネージャーもショップマスターも営業部も、全員が「お客様に楽しんでもらう」という一つの

ベクトルを共有し、一丸となって取り組みを進めることができました。すると、瞬く間に予約が殺到し、最終的には200件ものキャンセル待ちが発生したのです。この圧倒的なレスポンスに触れた時、自分たちが地域からどれほど必要とされ、期待されているかという、期待度の高さを凄まじい熱量で感じることができました。当日は、一生懸命に働く我が子の姿を見て、涙を流して感動されている親御様の姿が各ショップで見られました。家族二世代、三世代がアトレという空間で深い感動を共有している光景を目にした時、現場スタッフの意識も「単なる売場管理」から「地域の幸福な記憶の舞台を創っている」という誇りへと、劇的に変化したと感じています。

吉川：松戸店が取り組んだ「アートギャラリー自販機」では、お客様がアトレの行動をしっかりと見て、関心を寄せてくださっているという手応えをダイレクトに感じています。長引く駅改良や増築棟の工事に伴い、館内や駅構内に多くの「仮囲い」が出現し、どうしても殺風景な印象を与えてしまうという課題を抱えていました。そのタイミングで、松戸市やアキハマ・ブレーンズ・コミュニティー様からお声がけをいただき、障害者アートを展示する『キラッキラ 異才！発信プロジェクト』を展開してきました。その仮囲いアートを撤去後も自販機のラッピングという形で永続的に館内に残したのですが、インフォメーションカウンターの目の前に設置したこともあり、お客様から「この自販機はいくら寄付されるの？」「どういう仕組みなの？」という具体的なご質問を非常に多くいただきました。さらに、市内でこの「SDGs自販機」を設置した第1号であったことから、松戸市の公式ホームページやプレスリリース、さらには市内のSDGsセミナーでもご紹介いただきました。地域全体が「アトレなら何か面白い、意味のあることをやってくれる」という目線に変わってきているのを感じます。

小暮：竹芝店の「スペシャルオーケストラ」でも、まさに「日常の風景」化への変化を感じています。これまで開催を重ねてきたこのイベントは、プロとアマチュアの演奏家、学生、地域住民が一体となる参加型コミュニティ共生モデルです。11回も継続していると、常連同士のコミュニティが形成され、そこに毎回3〜4割の新規参加者が混ざり合って新しくお友達になるという、素晴らしい出会いの風景が当たり前に見られるようになりました。今回からイベントの有料化に舵を切り、JRE モールチケットを活用して参加費1,000円をいただく仕組みに切り替えたのですが、チケットレビューでは満点星5つに対して「10回目は4.9、11回目が5.0」という驚異的な満足度を記録しました。単なる一過性の無料イベントではなく、対価を払ってでも参加したい「街のサステナブルな日常」として、お客様の心の中に深く根付き始めていると実感しています。

社長：皆さんの話を聞いていると、サステナビリティという言葉が一人歩きするのではなく、それぞれの現場で「これ、アトレらしくていいよね」という自然な空気感の変化を生み出している。それこそが、文化が根付き、日常化し始めた何よりの証拠だと感じます。

THEME 02

知恵と感性の融合

AI（知恵）が現場の感性を支え、街と向き合う時間を創り出す

社長：次のテーマは、アトレが目指す「デジタルとアナログの融合」の核心に迫りたいと思います。三瓶さんたちのプロジェクトによって、全社的な生成AIの利用環境が整いましたが、現場の皆さんは、AIという最先端の「知恵」の助けを借りることで、逆に一番泥臭くて温かい「人や街との対話」というアナログな活動に、どのように時間を割き、注力できるようになりましたか。具体的な実感を教えてください。

吉川：今では「仕事になくてはならない、ないと仕事にならない」と言うメンバーがいるほど、日常的に救われています。私が入社した2年前はまだAIがなく、自分なりにいろいろと手探りで業務を行っていました。しかし、このAI環境が整ったことで、業務がぐっと効率的になりました。例えば、地域の方々と打ち合わせをする機会がかなり多いのですが、その内容をAIがすぐに議事メモとしてまとめてくれます。これにより、打ち合わせ後にチームメンバーで話し合う時間をより長く取れるようになりました。昨年の夏、地域共創ラボチームにおいて、取り組みの目的や全体で掲げる目標を再整理する機会があったのですが、若手のチームで毎日集まってじっくり話すという時間が多く取れたのは、少なからずAIで他の仕事を効率的に回せていたおかげなのかなと思っています。

田中：私も販促用の告知物制作やイベント運営の現場で、心理的なプレッシャーの軽減と業務短縮の恩恵を感じています。「おしごとキッズラボ」を運営する際、最も神経を尖らせたのは安全面とコンプライアンスでした。例えば、体験中に「火傷したらどうしよう」「食中毒が発生したらどうしよう」といった、お子様の安全面にものすごく気を使う必要がありました。その際、AIにチェック項目や免責事項策定などのサポートや、法令上のアドバイスをしてもらったりしました。また、これまでは販促物を制作する際、ポスターやPOP作成に多くの時間を費やしていましたが、先にAIでラフを作ることでイメージが伝えやすくなり、時間短縮に繋がりました。業務効率化ができたおかげで、振り返りをより深く行えるようになり、PDCAをしっかり回すということができるようになったと感じています。

小暮：竹芝店では、異なる組織や価値観を持つメンバー間の「共通言語の構築」にAIを活用しています。私たちが受託している「一般社団法人竹芝タウンデザイン」の業務には、アトレのメンバーやJRのメンバーなど計10名程度が日々仕事をしており、会社も異なるため価値観も違う社員が集まっています。ウォーターズ竹芝を5年間運営する中で、複合施設としてより良い場づくりをしようと試行錯誤しているのですが、メンバーの入れ替えも激しく、当初掲げていたビジョンをまた今年も考え直すというような、非常に非効率な繰り返し作業がありました。そこで、過去5年間の変遷や理事会などの報告データをすべてAIに読み込ませ、1枚の資料としてまとめるということをしました。新任者が来たらまずこれを見せることで、5年間をたどる作業を一瞬で解消し、みんなが同じ共通言語で話せるようになったことが、大きな成果だと感じています。また、販促のキービジュアルを作るときもお客様のコメントから求めているものを明文化してもらったり、構成案の改善点を出したりするのに役立てています。

社長：非常に素晴らしい活用の形ですね。AIという最先端の「知恵」を使いこなすことで、逆に一番泥臭くて温かい「人との対話」の質が上がる。これこそが、アトレが目指すべき人間中心のDXの形です。三瓶さん、現場がAIを「メンター」として自走させている姿を見て、プロジェクトを牽引した立場としてどう感じますか。

三瓶：現場の皆さんがそれぞれの業務の文脈に合わせてAIを使いこなしてくださっていることは、本当に励みになります。全社導入にあたっては、各店の人たちが実際どのように使っているかを見える化するためのKPIとして、定着率や利用率を測る「Gemini ステータスボード」を配信してきました。2025年4月の導入から毎月のように担当業務別でアイデアソンという研修を行ったのですが、そこでは「AI」という言葉は一切使わずに、日々の困りごとや悩みなど、仕事を楽にしたいなと思うことをアウトプットしてもらい、それをAIで解決できる好事例として共有していきました。一個できると「あ、じゃあこれもできるんじゃないか」と広がり、AIへの抵抗をなくしていく研修を毎月行ったことが、この定着化を後押しした大きな要因だと思います。今後は、現場から上がってくる好事例を集めて、業務の中でさらに有効活用できる幅を広げていきたいです。セキュリティ面などをより強化しながら、将来的には「アトレ独自AI」を作るという領域にも踏み込んでいきたいと考えています。

THEME 03

ファンづくりの本質

社会的価値がアトレの成長にもたらすもの

社長：「おしごとキッズラボ」や「スペシャルオーケストラ」、あるいは「アートギャラリー自販機」も、お客様が単なる「消費者」や「観客」として受動的にサービスを受け取るのではなく、自らが「主役・当事者」として企画に参画する形が極めて印象的です。地域連携を深めること、環境や社会への取り組みにお客様自身が当事者に回ることが、アトレの「ファンづくり」という持続可能性にどう寄与しているか、皆さんの見解をお聞かせください。

小暮：私は商業施設という存在を「粘土のような可塑性を持った場所にしたい」と常々考えています。粘土は押すと形が変わりますが、その反対の弾性ではじき返すのではなく、自分がアクションを起こしたことでアトレの形が少し変わったり、影響を与えることができたりするような、そんなショッピングセンターを作りたいのです。スペシャルオーケストラがまさにその実例で、プロとアマチュアの演奏者や地域住民が楽器を持ち込んで一つの音を一緒に作っていきます。チケットのレビューの中に、「住むところも年齢も違うメンバーが、音を出した瞬間に一つになった」というコメントがありましたが、一方的に売りつけるようなイベントではなく、自分が関わって「私の証が残る、影響を与えることができた」という体験があるからこそ、愛着が湧き、関心を持続させることができるのだと確信しています。

田中：小暮さんも述べた通り、こうした取り組みは単なる買い物の場ではなく「思い出の場所」としてアトレを位置づける契機になります。「おしごとキッズラボ」では職業体験型テーマパークとは異なる、実際に営業しているリアルな仕事が揃っていることに徹底的にこだわりました。美容院では本当にウィッグをカットしたり、パンケーキカフェでは実際に焼いている横に立って生クリームを絞ったり、惣菜店では惣菜を一つずつ詰めてお弁当を作りました。参加したお子様にはお給料として「サンキューペイ」をお渡し、館内でのお買い物にも繋げました。準備するショップマスターも本当にそのお子様一人ひとりのために対応することで、ショップを巻き込んだEX（従業員体験）や学びを高めることにもつながっています。新浦安は地域との結びつきがとても強く、お客様がアトレを他の施設とは違う目で見てくださっています。小さな積み重ねではありますが、お客様のためにと思ってやったことが結果としてサステナビリティにつながり、アトレの一生もののファンを作っていくのだなと体感しています。

吉川：松戸店のアートギャラリー自販機も、まさに日常の「飲み物を買う」というちょっとした買い物がそのまま寄付につながるため、お客様が非常に

● アトレ松戸／アートギャラリー自販機プロジェクト・イベント配布用ステッカー

低いハードルで社会貢献や地域貢献に当事者として携わることができるコンテンツになっています。また、このイラストをステッカーにして野外イベントなどで配っているのですが、とりわけお子様の反応が良く、商談でお会いする地域の方にお渡ししたりと、アトレの地域共創の取り組みを広めるきっかけになっています。松戸駅周辺には3つの商業施設がありますが、一番アクセスが良く行きやすいアトレだからこそ、こうした取り組みを続け、愛着を持って使い続けてもらえる施設を目指したいです。

社長：お客様が自ら『創る側』に回ることで、アトレは単なる施設を超えて、その人にとって代わりのきかない『自分の居場所』になる。この深い絆こそが、私たちの成長の源泉です。創業35年を超えるアトレが積み上げてきた、良いものは残しつつ、新しい体験価値（CX）や感動を提供していく。お客様の期待値があるからこそ継続性が必要であり、そこに毎年違ったスパイスを入れていくことがまさにCXの原点なのだと、皆さんの話を聞いて改めて実感しました。

THEME 04

継続と循環

三方よしの仕組みづくり

社長：サステナビリティにおいて、もう一つ極めて重要なテーマが「継続性と循環」です。無理のあるボランティアや、一過性の持ち出しによる社会貢献は長続きしません。社会貢献が自然と売り上げや環境価値向上に結びつく「三方よし」の仕組みを継続させるための秘訣について、それぞれの視点からお聞かせください。

吉川：松戸店が今回注力したのは、「地域のこれまで持っていたつながりを強化すること」と「アトレが過度な労力を割かない効率的なモデルを作ること」です。今回の自販機の取り組みでは、松戸市、アキハマ様、伊藤園様という、元々松戸市のSDGsキャラバンに共に加盟していた地域の方々とのつながりでお声がけをいただき、私たちは設置場所やデザインを一緒に考察することに特化しました。自販機の実際の契約に関しては、子会社を経由することで私たちがあまり時間を割くことなく、売上の10%が自動的に福祉支援に寄付されるという象徴的な取り組みに昇華することができました。地域のつながりを強化し、効率的に参加できるモデルを作ることこそが、長く続けられる秘訣だと感じています。

小暮：竹芝店「スペシャルオーケストラ」における有料化への舵切りも、まさにイベントを持続可能にするための仕組みづくりでした。元々は無料イベントだったものを、10回目から参加費1,000円をいただく仕組みに切り替えました。全部で130人ほどが参加されるため、約13万円の直接

収入が生まれるようになり、告知物を少しブラッシュアップするなど、運営費の一部を賄える持続可能なイベントへと進化させることができました。さらに、イベント当日のアトレ竹芝の全館売り上げは前年同曜日比で110%ほどと、ビジネスとしても明確な経済効果を生み出しています。田中さんが新浦安店の「おしごとキッズラボ」で、お給料としてサンキューペイを渡すことで、そのままショップで買い物をするという「経済の巡回」を生み出したと話していましたが、今後は単に場所を貸すだけではなく、お互いがwin-winになって収益にもつながるような施策や仕組みの整理が重要になると感じています。

社長：ボランティアではなく、ビジネスとしてしっかり回るからこそ、街の方々も気負わずに参加できる。アトレが街のハブとなり、この『無理のない循環』を標準化していくことこそが、私たちの使命ですね。

2030年に向けた「アトレの当たり前」の定義

結びに：サステナビリティを、「日常の風景」にするために

社長：素晴らしい議論をありがとうございました。最後に、会社設立40周年を迎える2030年を見据え、私たちが掲げる「VISION2030〜価値共創プロデューサー」の実現に向け、みなさんのサステナビリティを「日常の風景」にするために、次に挑戦したい「アトレの当たり前」を教えてください。

三瓶：私は、2030年には「社員全員が当たり前のようにAIを使いこなし、自分で動くべきところは動き、AIに頼るところは頼る、という働き方が当たり前になる環境整備」を引き続きやっていきたいです。マーケットに合わせた色々な形のアトレが今後複数店開業を迎える中で、限られた社員数でアトレをより良くしつつ、質も高めていくという業務環境を作るためには、DXやAIが不可欠です。過去の膨大なデータをしっかり蓄積・整理し、いつでもどこでもサポートができる仕組みを整備することで、これからの新しい働き方のスタンダードを作っていきたいと思っています。

田中：私は、「サステナビリティという意識がなくても、お客様のためにやったことが結果としてサステナビリティにつながるような流れ」を、次の当たり前にしていきたいと考えています。今回の座談会では、新しいことをしつつも守るべきものはしっかり守っていくことの大切さを感じました。興味・関心軸をしっかり持ちながら自発的にアンテナを伸ばし、新浦安店らしいイベントを引き続き営業部全体で当たり前に取り組んでいけたらなと思っています。

吉川：松戸店が目指すのは、「地域の方が愛着を持って使い続けられる、愛される施設になること」です。松戸市も今年の4月から、SDGsを担当している部署の名称を「未来共創担当室」へと変更し、市としても共創へ非常に注力していることを感じています。アトレも、松戸市との共創をお客様や市民の方々にもっと知っていただけるよう、地域の課題解決につながる取り組みを店全体で取り組んでいく環境を当たり前にしていきたいです。

小暮：「竹芝タウンデザイン」の受託業務を通じて、周辺の競合他社や行政と手を取り合いながら、街づくりやエリアブランディングで得た知見を、アトレ全体に還元していきたいと考えています。アトレが35年間培ってきた「ショップを輝かせるプロデュース型運営」のノウハウは、寄り添いながら一緒に育っていくという点で、そのまま街にも応用できます。唯一の駅ソト物件であるアトレ竹芝が、他店の指針になれるような独自の挑戦を続けていければと思います。

社長：皆さん、非常に心強い、頼もしい抱負をありがとうございました。皆さんの話を聞いて、アトレの強みはやはり『現場の情熱』にあると再確認しました。AIという『知恵』を賢く使い、そこで生まれた『余白』に、皆さんの豊かな感性を注ぎ込み、街を彩っていく。これこそが、私たちが目指すサステナビリティの形です。私たちが目指す2030年の未来、それは今日ここにいる皆さんが語ってくれた挑戦が、100の街で『当たり前の景色』になっている世界です。私はこれを単なる抱負とせず、アトレが果たすべき社会的責任であり、約束として捉えていきたい。皆さんがその先頭に立ち、情熱を持って変革を牽引できるよう、私は全社挙げての環境整備とサポートを惜しまないことを約束します。今、私たちは立ち止まることなく、これからも街、環境、人の架け橋となり、新しい未来を創り続けていく。誰もが当事者となり、アトレの新しいスタンダードを共に築き上げていきましょう。

変革への一歩が、未来を動かす。

アトレは地域社会や地球環境と一つになり、誰もが「自分らしく」輝ける持続可能な社会を、街の皆様と共に育むことを目指しています。私たちが追求するのは、ESG経営の枠組みを超え、社員一人ひとりの独創的なアクションが地域価値の向上へと直結する、しなやかで力強い未来の実現です。
その一環として2024年度に創設された「アトレ サステナビリティアワード」は、各店・本社で実施されている優れた活動を表彰し、その知見を社内外に共有することで、さらなる挑戦を促すことを目的としています。

2回目となる2025年度は、前年の約2倍となる95件の取り組みがエントリーされました。社員によるWeb投票では、「アトレらしいか」「マネしたいか」「世の中のためになっているか」を基準に、活動への深い「共感」や「応援」が集まりました。本アワードを通じて、社会（Society）・環境（Environment）・人（Human）の各部門賞、そして最高賞であるグランプリが決定。これらの活動を次なる飛躍への原動力とし、アトレはステークホルダーの皆様と共に、持続可能な未来への歩みを止めることなく進めてまいります。

グランプリ（社長賞）

総合企画部

生成AIの全社導入と「AIメンター」による業務変革

「効率化」の道具から、社員の挑戦を支える「相棒」へ

社員の能力拡張と事業成長を加速させるため、生成AI「Google Workspace with Gemini」を2025年4月に全社導入しました。生成AIを単なる効率化の道具に留めず、人の可能性を広げるパートナーへと昇華させた革新的なプロジェクトです。RPG風の「ステータスボード」やアイデアソンの実施など、心理的ハードルを下げる独自の定着施策により、導入半年で利用率は89.7%に到達しました。現場から自発的な業務改善や新たな企画立案が次々と生まれるなど、組織全体に自ら変革を創り出す「自走の文化」を根付かせました。

社会部門賞

アトレ新浦安

おしごとキッズラボ

街全体が「生きた教室」に。子どもたちの笑顔が、地域の絆を強くする

館内19ショップが参画し、小学生を対象とした本格的な職業体験プログラムを2025年8月1日から8日まで実施しました。警察・消防とも連携した「地域一体型」の学びを提供し、次世代育成に貢献。独自の「お給料（サンキューペイ）」制度を通じた経済教育や、地域住民とのLINE ID連携による継続的な交流を生み出し、商業施設を起点とした豊かなコミュニティ形成を牽引しました。

環境部門賞

アトレ松戸

地域・福祉と創る アートギャラリー自販機プロジェクト

アートが繋ぐ、環境と福祉の新しい形

駅改良工事に伴う「仮囲い」をキャンバスに見立て、障害者アーティストの作品で彩る《松戸市×（株）アキハマ・ブレーンズ・コミュニティー×アトレ松戸》による連携プロジェクトを2025年1月から実施しました。工事中のネガティブな空間を「街のギャラリー」へとアップデートし、環境価値を向上。2026年3月には、（株）伊藤園との連携により設置した自動販売機の売上の一部を福祉施設へ寄付する循環モデルを構築し、アートを通じて地域・福祉・商業を繋ぐ独創的な環境改善と社会貢献を実現しました。

人部門賞

アトレ竹芝

参加型コミュニティ共生モデル「竹芝スペシャルオーケストラ」

ウォーターズ竹芝から響き合う、一期一会のハーモニー

楽器持参で誰でも参加できる「スペシャルオーケストラ」で、プロとアマチュア、学生等が垣根を超え、水辺の開放的な空間で「一つの音」を紡ぎだす。そんな音楽を通じた体験が、街への愛着と人々のWell-beingを育んでいます。100名を超える奏者の方々に加え、第10回（2025年9月23日）は550名、第11回（2026年3月14日）は687名の来場者を記録するなど、街に関わるすべての人々を主役にする、新しいまちづくりの形を提示しています。（主催：一般社団法人竹芝タウンデザイン　※アトレ竹芝にて、本イベントを含む企画・運営業務を担っています）

未来をみつめるアトレの取り組み

日々を紡ぐ街に、豊かな実りと確かな安心を

アトレが目指すのは、お買い物の場を超えて、訪れるすべての人が未来への希望を感じられる場所です。
土に触れ、豊かな自然を次世代へつなぐ「アトレのはたけプロジェクト」。
駅ビルの屋上から都市の生態系を守り、地域の伝統文化を育む「緑のオアシス」。
そして、東日本大震災から15年が経過した今も変わらず、大切な命と暮らしを守り抜く「実効性の高い防災拠点」としての使命。
私たちが蒔いた一つひとつの種は、お客様やショップクルー、そして地域社会との絆という確かな実りへと育ち始めています。
街の毎日に寄り添い、共に歩むアトレだからこそできる、持続可能で健やかな未来への物語がここにあります。

01 アトレが耕す、地域の未来

自然と共生する「アトレのはたけプロジェクト」

茨城県土浦市新治地区の耕作放棄地を再生し、2017年に開園した「アトレのはたけ」は、都市と農村を繋ぐ体験型農園です。JA水郷つくばとの連携のもと、単なる農作物の栽培や食文化の発信に留まらず、適切な農地利用による生物多様性の保全や土壌による炭素貯留など、環境負荷を低減し豊かな自然を次世代へ継承する取り組みを推進しています。
2025年度は、4月に新入社員11名が地域共創の原点を学ぶ研修を実施したほか、年間を通じて多彩な体験の場を創出しました。秋には昨年度を上回る過去最多の70名のお客様を招いた芋掘り体験や、総勢72名が参加した食育イベントを開催。さらに、11月の「レンコンの日」には250名へ秋の味覚セットの配布とれんこん教室を行い、2月には30名が参加するそば打ち体験を開催しました。
これら地域に根差した農業体験や環境保全活動を通じて、参加者の食や自然への関心を高め、アトレは持続可能な未来に向けて、お客様や地域社会との絆を深く育み続けています。

担当者VOICE

開園10周年に向け、地域との絆を全社で育む体制が整いつつあります。農業を通じた共生の輪を広げ、アトレらしい未来をここから耕していきます。

プレイアトレ土浦　和田 泰輔

02 アトレが考える自然との共生と社会インフラ

駅ビル屋上から広がる、都市と自然の新たな共生

TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の視点に基づき、アトレは各地域の拠点として都市環境と調和する「機能する自然」を展開しています。

アトレ川崎：
都市の生態系を支えるオアシス

屋上広場「スカイコート」は、ヒートアイランド現象の緩和に加え、多摩川を往来する渡り鳥が羽を休める「都市の止まり木」の役割も担っています。人々へ癒しを提供すると同時に生き物の中継地ともなる、都市における生態系サービスを支えるハブとして貢献しています。

アトレ亀戸：
伝統野菜がつなぐ地域コミュニティ

屋上庭園「そらいどひろば」では、江戸伝統野菜「亀戸大根」を栽培。2026年3月、JRおよび東武鉄道亀戸駅、地域の学校や企業が連携して育てた大根を収穫し、亀戸香取神社へ奉納しました。地域固有の種を育み街へ還元する、自然資本の恩恵を地域と共に享受する取り組みです。

担当者VOICE

「100の街があれば100の顔のアトレ」のミッションの下、アトレらしい自然や地域との共生の形を育んでいます。

総合企画部　大谷 秀美

地域と築く、駅ビル防災の新基準

東日本大震災から15年。アトレは社会インフラとして「お客様とショップクルーの命を守る」ため、より実効性の高い防災に取り組んでいます。
アトレ各店では、年2回の自衛消防訓練と専門的な防火防災研修を実施しています。2025年度は、スキマ時間に学べる「お役立ち動画」を活用した知識習得に加え、現場での実践的なアウトプットをさらに強化しました。
具体的には、119番通報や初期消火のロールプレイング、煙体験、全ショップ参加型の訓練など、臨機応変な対応力を養う内容を展開。さらに、駅や病院をはじめとする地域団体との合同訓練を通じて、地域一体となった防災拠点としての役割も担っています。
こうした真摯な活動は、消防署の「自衛消防力診断」における金賞獲得や、「自衛消防訓練審査会」での3年連続優秀賞受賞など、社外からも高く評価されています。

担当者VOICE

お客様とクルーの安全を守るため、防火防災研修を継続実施し、よりよい館内環境を維持してまいります。

開発企画部　石坂 茉莉奈

アトレの未来を育てる人づくり

01 育児と仕事の両立支援

妊娠・出産期間から育児中まで、安心して休職できる制度と環境が整っています。
復職後はフレックス制やテレワークなども活用しながら、一人ひとりに最適な働き方を実現できます。

02 副業制度

社員の成長と挑戦を広げる機会として、副業を積極的に推進しています。雇用型・非雇用型など、個人の希望に合わせて副業形態を選択可能。新たな気づきやスキルを得て、自己成長や働きがいの向上につながることを期待しています。

03 ホンネ祭（フェス）

「アトレをもっとよくしたい」そんな社員の本音が行き交う「ホンネ祭」。意見や思いを伝えるだけでなく、これまで数多くの提言が制度として実現されてきました。社員と会社が本気で向き合い、会社の未来を一緒に変えていくイベントです。

01 手厚い両立支援で安心して休職・復帰できる環境

アトレ目黒
後藤 淳生

育児も仕事も大切にする働き方が実現。

産後パパ休暇と育児休職を合わせて、約3ヶ月間お休みをいただきました。
育児休暇を取得した男性社員の先輩を何名も知っていたので、私も妻と相談し、出産予定に合わせて産休・育休を取得しようと決めました。
初めてのことでわからないことばかりでしたが、社内ポータルにある「育児と仕事両立支援ガイドブック」に、制度についてわかりやすくまとめられていたので、事前に必要な情報をしっかりと収集できました。休職するタイミングや期間についても、総務部が丁寧にアドバイスしてくれたおかげで、最適な形で取得することができたと思います。
休職する際に一番不安だったのは、自分が抜けることで、メンバーに負担をかけてしまうことでした。でも、個別に話していく中で「仕事のことは気にしないで育休に専念してね」と温かい言葉をかけていただき、安心して休暇に入ることができました。人事面では、後任者への引き継ぎ期間をしっかり確保できるようサポートしていただきました。
育休中は、総務部の窓口とチャットができるので、気になることがあれば都度連絡を取るようにしていました。復職1ヶ月前の面談では、育休中の状況を気にかけてくださり、復職後の勤務地や働き方の希望を丁寧に聞いていただけました。復職と同時に目黒店へ異動になりましたが、細かな部分まで事前にやり取りできたので、初日から安心して出勤できました。
復職後はフレックス制度を活用し、家族との時間を大切にしています。これから妻も仕事に戻ると状況はまた変わりますが、テレワークなども取り入れながら、お互い感謝の気持ちを忘れずに、仕事と家庭どちらも大切にできる働き方を続けていきたいです。
アトレの両立支援は制度だけでなく、バックアップ体制や、快く受け入れてくれる文化が揃っています。経験者としてお話しできることもありますので、気になることがあれば、ぜひ気軽に声をかけてください。

02 個々の成長を後押しするアトレの副業制度

アトレ上野
野櫻 麻央

本業と副業、
二つの視点で現場の声に
寄り添えるように。

入社後、レストランのエリアマネージャーを任されることになりました。これまで飲食店でのアルバイト経験はありましたが、デベロッパーという立場で改めて現場で働いてみたいと思い、副業を決意しました。
本業と無理なく両立するためには柔軟に働けることが重要だと考え、学生時代にアルバイトをしていたレストランで働かせてもらうことにしました。
まったく別の環境で別の仕事をする時間はリフレッシュにもなりますし、私にとって大切なもうひとつの居場所になっています。
副業を経験してみて、学生の頃のアルバイトと、社会人として現場で働くことで得られる気づきはまったく違いました。現場に立つことで、施策の導入や変更がどれほどの負荷になるのか、どんなことがハードルになるのか、ショップ側の立場で深く考えられるようになったと感じています。
実際に、担当ショップでQRコードオーダーを導入する際、副業のアルバイト先で導入経験があったことから、オーダー数の変化や現場の負荷を事前に理解した上で、現場に的確なアドバイスができました。ショップ側の準備期間の要望についても、その理由と必要性を認識し、上司に説明することができました。
上野のレストランエリアには、経験豊富で現場スキルの高い店長が多いのですが、私が副業の話をすると共感していただけて、距離がぐっと近くなったように感じます。
「副業」と聞くと大変そうなイメージがあるかもしれません。自己成長、気分転換、収入アップなど理由は人それぞれですが、必ずプラスになる経験ができるはずです。
アトレは副業を支える制度がきちんと整備されていますので、まずは申請してみるところから、ぜひ前向きにチャレンジしてほしいです。
この恵まれた環境に感謝し、ショップの気持ちを誰よりも理解できるエリアマネージャーを目指していきたいと思います。

03 「ホンネ祭」での提言が、キャリア支援制度として実現

アトレ大井町
村上 類

発信できる安心感と、
それを受け入れてくれる
風土がある。

私が中途で入社した時期は、同期の社員が周りにおらず、大きな困りごとはないものの、なんとなく寂しい気持ちがありました。
そんなときに大井町店の三輪店長が紹介してくださったのが、当時竹芝店にいた諫山さんでした。
「年齢も境遇も近いから、きっと話が合うよ」とカジュアルな形でご紹介いただき、他店の視察も兼ねて2人でお茶をするようになりました。
何度か会って話すうちに、中途ならではのちょっとした悩みや小さな「あるある」を共有できて、すごく心が軽くなったんです。これまで他店のメンバーと深く交流するきっかけがなかなかありませんでしたが、境遇や感覚が近い人と話せる機会はとても貴重でした。
新卒社員向けのメンタリング制度にちなんで、私たちはこれを「非公式メンタリング」と呼ぶようになりました。
毎年夏に開催される「ホンネ祭」は、普段あまり言えない本音を、社長もいる公の場でポジティブに発言できる場所。今回の提言は、諫山さんから「非公式メンタリングのことを提言してみないか？」と言われたのがきっかけでした。
非公式メンタリングにたくさん救われたので、お世話になった方々への恩返しの気持ちと、シンプルに知ってほしいという思いで、発表することにしました。
私の提言は「Goodホンネ賞」を受賞し、中途入社3年目までの社員を対象とした任意メンタリング制度として、正式に採用されました。
本当に驚きましたし、人前で話すことは少し苦手だったのですが、「思いを発信すればちゃんと届く」という成功体験にもなりました。
即戦力が期待される中途社員は、新卒とはまた違うプレッシャーや悩みがあると思います。
「私は大丈夫！」と思っている人こそ、メンタリング制度を試してみてほしいです。
前職との違いを感じる場面や、ちょっとモヤモヤするようなとき、今度は私がメンターになって、誰かの本音を受け止められるような存在になりたいと思います。

駅ビルで出会う、心が“つながる”アート体験。

HERALBONY Art Prize 2025 | JR東日本賞

atré meets HERALBONY 1.20(火) TUE ～ 5.10(日) SUN

つながる風景展

IKUTA RINAKO

アトレは、JR東日本グループの一員として、すべての人が心豊かに暮らせる共生社会の実現に向けて、これまでさまざまな場面で(株)ヘラルボニーとの共創を重ねてきました。障がいのあるアーティストの活躍の場を広げ、福祉、アート、街づくりを有機的に結びつける、社会的・文化的イニシアチブとして、共に新たな未来を創造することを目指しています。
この度、HERALBONYが主催する国際アートアワード「HERALBONY Art Prize 2025」において、生田梨奈子氏の作品「つながる風景」が《JR東日本賞》を受賞しました。
小さなピースがつながり合って壮大な景色を描くこの作品ように、アトレもまた、人、街、そして文化をつなぐ場所でありたい――。そんな想いを込めて、アトレ各店を巡るアートプロジェクト『atré meets HERALBONY「つながる風景展」―アートが紡ぐ、つながる景色。』を、2026年1月20日から5月10日まで開催しました。
本展は、アール・ブリュット(生の芸術)の唯一無二の魅力に触れ、多様性への理解を深める契機を提供するとともに、持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも寄与する、アトレのサステナビリティ活動を象徴する具体的な実践です。

【HERALBONY】 ヘラルボニー
「異彩を、放て。」をミッションに、障害のイメージ変容と福祉を起点に新たな文化の創出を目指すクリエイティブカンパニー。障害のある作家が描く2,000点以上のアート作品をIPライセンスとして管理し、正当なロイヤリティを支払うことで持続可能なビジネスモデルを構築。自社ブランド「HERALBONY」の運営をはじめ、企業との共創やクリエイティブを通じた企画・プロデュース、社員研修プログラムを提供するほか、国際アートアワード「HERALBONY Art Prize」の主催など、アートを軸に多角的な事業を展開しています。2024年7月より海外初の子会社としてフランス・パリに「HERALBONY EUROPE」を設立。

【HERALBONYとJR東日本グループ】
JR東日本グループのサービスは年齢・性別・障害のあるなしにかかわらず、日々多くのお客さまにご利用いただいています。HERALBONYとJR東日本グループそれぞれの強みを活かし、「当たり前」を超えて、思いやりとワクワクにあふれた社会の実現をめざして、2019年より共創をスタートさせました。HERALBONY契約作家のアートを駅や鉄道、駅ビルなどのグループのアセットに展開し、さまざまなプロジェクトを実施しています。
HERALBONY Art Prizeへゴールドスポンサーとして協賛し、JR東日本賞として2024年は「インドネシアの影絵」(岩瀬俊一 作)、2025年は「つながる風景」(生田梨奈子 作)を選出しました。選出された作品は、駅装飾やホテルロビーでの展示等様々な場所で多くの方にご覧いただいています。

JR東日本賞受賞作品 『つながる風景』生田 梨奈子

2025 CORPORATE PRIZE JR東日本賞
●Year：2022-2024●Size：300×360mm ●Material／Technique：色鉛筆、紙やすり

【作家：生田 梨奈子】 RINAKO IKUTA

幼少期からものづくりが好きで、絵を描いたり、人形の服の制作をしていた。9歳の時、家族と共にユーラシア大陸を列車で横断した経験は、彼女の創作活動に大きな影響を与えた。2015年頃、臨床美術の教材で紙やすりに色鉛筆で描く技法と出会い、そのざらついた描き心地と独特の質感に魅了される。以降、自身の表現のひとつとして取り入れ、音楽のリズムや感情の高まりに導かれながら、鮮やかで直感的な色彩を生み出すようになった。本作品「つながる風景」は、6×18cmの紙やすりに描かれた作品を10枚並べたもので、それぞれには友人のイメージや音楽から受けた影響が込められている。

JR東日本 HERALBONY atré

巡回展（原画展示）

企画の核となる巡回展では、JR東日本賞受賞作品である生田梨奈子氏「つながる風景」の貴重な原画をアトレ8店で展示。作家の創造の軌跡をたどる過去の作品群もあわせ、特製ショーケースでその繊細な世界観を間近にお届けしました。展示期間中、アトレ各店では「つながる」というコンセプトを体現する特別企画を実施し、アートとの対話を楽しむ鑑賞会やワークショップをはじめ、限定メニュー販売、アートフェアなど、地域やショップの個性を活かした多様な体験価値を創出しました。また、山手線を中心としたトレインチャンネル広告や、JRE-Adsを活用したWeb広告、アトレ館内でのデジタルサイネージによる動画放映を包括的に展開。駅や鉄道という「日々多くの人々が行きかう空間そのもの」をメディアとして生かした、ダイナミックな情報発信を実現し、広く社会へアプローチしました。

アトレ恵比寿　撮影：橋本 美花

アトレ恵比寿
カルチャーと日常のクロスポイント
フォンテーヌ広場での展示に加え、2ショップにてアートフェア(本館5Fバースデイ・バーI『DAILY MUSEUM』、ビーカンパニーI『アートマグフェア』)を開催しました。

アトレ竹芝
感性と出会い対話する
ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森®」での展示に加え、2026年2月8日放送のJ-WAVE「ダイアログ・ラジオ～IN THE DARK」にて、ヘラルボニー代表の松田文登さんとバースセラピスト・志村季世恵さんとの対話をお届けしました。

アトレ吉祥寺
カルチャーと日常のクロスポイント
ゆらぎの広場での展示に加え、本館2Fものとアートによる、シルクスクリーンやスクラッチアートのワークショップを開催しました。

アトレ取手
アートで共創するコミュニティ
とりでアートギャラリーでの展示に加え、アート・コミュニケータ「トリぱァ」とともに、作品からインスピレーションを得たオリジナルのワークショップを開催しました。

アトレ川崎
家族で楽しむクリエイティブ・パーク
ツバキ広場での展示に加え、パラアート作品展「Colors(カラーズ)かわさき展」を同時開催。「こと!こと?かわさき」のアート・コミュニケータ「ことラー」とともに作品を楽しむ「ことラー's Day」も実施しました。

アトレ新浦安
日常に溶け込むアート
ガーデンテラスでの展示に加え、アート・コミュニケータによる対話型鑑賞会や作品から得たインスピレーションでアート制作を行うワークショップを開催しました。

アトレ大森
アートに触れるひととき
ギャラリースペースでの展示に加え、一部ショップによるアートフェアや近隣アートスクールとのコラボレーションによるワークショップを開催しました。

アトレ上野
世界につながる文化創造HUB
The Arts Fusion by L'écrinでの展示に加え、オリジナルカフェメニューを提供。JR上野駅PLATFORM13と連動した動画放映を行いました。

書店コラボレーション企画

アトレ内の対象書店10ショップにて書籍をご購入いただいたお客様に、「オリジナルアートしおり」(全10種類)を計24,000部プレゼントしました。生田氏の「つながる風景」は10枚のアートで構成された作品で、それぞれ絵柄の異なるしおりを10枚コンプリートすると一つの作品になる仕様です 。

4月13日～	1月20日～	2月17日～	3月27日～	1月20日～	2月27日～	4月28日～	2月27日～	4月28日～	3月17日～
アトレ大森 4F	アトレ目黒1 5F	アトレ吉祥寺 2F 4番街	アトレ新浦安 2F	アトレ恵比寿 本館 5F	アトレ取手 3F	アトレ秋葉原1 2F	アトレ松戸 6F	アトレ上野 WEST 1F	アトレ川崎 4F
ブックファースト	有隣堂	ブックファースト	有隣堂	有隣堂	くまざわ書店	三省堂書店	くまざわ書店	三省堂書店	有隣堂

インフォメーション連動企画

アトレ5店のインフォメーションスタッフが、JR東日本制作の「つながる風景」オリジナルスカーフを着用してお客様をお迎えしました。

JR上野駅PLATFORM13動画放映

アトレが大切にしていること

MISSION

100の街があれば、100の顔のアトレ

一つとして同じ街がないように、一つとして同じアトレはありません。
私たちは、その街ならではの風土や文化、歴史をとらえるためにマーケティングを重視しています。
「街の玄関口」として、駅の改札を出た時に街の雰囲気を感じられるような館づくりを行うとともに、「街の顔」として、様々なライフシーンに応えられるよう、その街に合ったリーシングやプロモーションの実施、地域とのつながりを活かした取り組みを行っています。
アトレは、街の魅力を最大限に引き出し、街とともに成長していきます。

PHILOSOPHY

お客様と地域の皆様に新しい価値を…いつまでも、しなやかに

私たちは、街のたたずまいやお客様の暮らしに寄り添い、日々を彩る楽しさや新たな出会いをお届けしたいと考えています。
世の中がめまぐるしく変わっていく中で、その変化にしなやかに対応し、さらにその先にあるお客様の満足や価値ある地域社会の未来に向けて貢献していきたい、私たちの企業理念にはそんな思いがこめられています。
いつもアトレが「きらめく街、ときめく暮らしの、はじまりに。」そうあり続けられることを目指し、「100の街があれば、100の顔のアトレ」というミッションに取り組んでまいります。

VALUE

きらめく街、ときめく暮らしの、はじまりに。

私たちは、いつの日にも魅力あふれる街の入口でありたいと考えます。そのために、お客様にとって「いつでも新しい発見や出会いがある場所づくり」「花や緑で彩られ誰もが心地よくほっとするような空間づくり」に取り組んでいます。
アトレを楽しむことは、その街のよさや雰囲気を知ることでもあり楽しむことでもあります。
“街と人の接点として　毎日立ち寄りたくなる、暮らしを豊かに彩る”私たちはそんな存在を目指しています。

atréの由来　アトレの語源は、「魅力」を意味するフランス語「attrait」。「attrait」には、愛着、好み、魅惑という意味もあります。

アトレのサステナビリティ

with atré

アトレ「と」ともに未来へつなぐ

**変化の激しい時代をしなやかに歩み、100年先もその先も、魅力的なライフスタイルを提案し続けるために。
アトレは、関わる全ての方々と手を取り、街、環境、人との架け橋となり、持続可能な社会の実現を目指します。
より良い未来へ、ともに。これが、私たちのサステナビリティへの思いです。**

人と街をつなぐ

アトレは、街づくり、場づくり、人づくりを通して、アトレのある街との地域共創や魅力発信に取り組んでいます。
行政、学校、福祉、地元団体との連携を深め、活気あふれるコミュニティの形成や街の活性化、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に貢献していきます。

私たちと未来をつなぐ

かけがえのない地球環境を未来世代へ引き継ぐために、事業活動全体で環境負荷の低減に真摯に取り組んでいます。
CO_2排出量と廃棄物排出量の削減、リサイクル率の向上などを推進し、脱炭素社会・資源循環型社会の実現を目指します。

働きがいと生きがいをつなぐ

人権尊重およびDEIを基盤に、お客様、地域の方々、ショップクルーが安心して過ごせる快適な環境とアメニティを充実させています。
また、多様な社員一人ひとりが能力を発揮できるよう、人材育成と柔軟な働き方を推進し、Well-beingの向上を目指します。

with atré

株式会社アトレは、国連が掲げる
持続可能な開発目標（SDGs）に賛同しています。

society

人と街をつなぐ

アトレ亀戸

《歌舞伎の町亀戸プロジェクト》との連携による江戸文化の継承と発信『歌川国貞 浮世絵展』

アトレ亀戸では、「歌舞伎の町亀戸プロジェクト」や地域と連携し、亀戸ゆかりの浮世絵師・歌川国貞（三代豊国）に焦点を当てた文化発信イベントを2026年3月1日から29日に開催しました。現在の江東区亀戸（本所五ツ目）で生まれ、生涯の多くをこの地で過ごしたと言われる国貞の貴重な浮世絵16点を無料公開したほか、紙芝居の上演や参加型アートの作成など、質の高い学びと文化体験を提供し、期間中多くの来場者にお楽しみいただきました。この取り組みは、単なる展示に留まらず、若年層から歴史ファンまで幅広い層が街のアイデンティティに触れる機会を創出。江東区のまちづくり事業と足並みを揃え、街の歴史的資産をアピールしました。駅ビルが地域団体の想いを可視化する「文化の拠点」となり、地域共創による江戸文化の継承と、街の価値向上に大きく貢献しています。

担当者VOICE

ご来場の皆様の『亀戸愛』に触れ、感激しました。このネットワークをきっかけに、これからも街の魅力を広げていきたいと思います。

アトレ亀戸　北里 淳子

アトレ恵比寿

『EBISU CURRY DISCOVERY』を通じた恵比寿エリアの回遊促進とまちづくり

アトレ恵比寿では、地域の魅力である「食」に着目し、街の飲食店と一体となったローカル回遊型フェア「EBISU CURRY DISCOVERY」を2025年8月1日から31日に開催しました。地域との連携を深めるため、アトレが「街のハブ」となり、館内ショップと周辺の名店情報を集約した「カレーMAP」の配布や、公式LINEを用いた館内外のデジタルスタンプラリーにより、エリア一帯の回遊を促進しました。さらに、本館4階フォンテーヌ広場にて、農林水産省主催「野菜を食べようプロジェクト」の一環による「カレーの野菜掘り体験」ワークショップをお子様向けに実施するなど、館内での体験価値向上にも注力。食と体験を通じて、恵比寿エリアの関係資本を最大化する新しい地域共創の形を実現しました。

担当者VOICE

街の魅力や地域資源をアトレ恵比寿のプロモーションに繋げることで、アトレだからできる街づくりを今後も進めて参ります。

アトレ恵比寿　黒田 桃代

アトレ取手

たいけん美じゅつ場 VIVAによる学校連携と市民プレイヤー『トリばァ』

アトレ取手では、4階の文化交流広場「たいけん美じゅつ場VIVA」を拠点に、市民プレイヤー「トリばァ」の育成、学校連携プログラムを推進しています。アート・コミュニケータである「トリばァ」は、対話型鑑賞プログラムの伴走者として不可欠な存在です。2025年度には取手市内全14校の小学3年生を対象としたプログラムの実施を行い、児童・教員合わせて約900名が参加し、教育機関との連携をさらに強化しました。市民が主体となって小学校での授業や対話を実践する一連の活動は、地域の絆を深める先進的な教育モデルとして着実に浸透しています。アトレが行政、学校、市民を繋ぐことで、多様性を認め合う共生社会の実現と、持続可能な街づくりに具体的な成果を上げています 。

※取手市、東京藝大、JR東日本、アトレが連携し、取手の特徴のひとつであるアートによってまちの新しい魅力づくりに取り組むことをめざし、「たいけん美じゅつ場 VIVA」は誕生しました。産官学連携によって多様なニーズを満たすプログラムを展開しています。

担当者VOICE

トリばァが新しい文化を創り、生き生きと活動することでアトレと取手の街に新しい価値が生まれていると日々感じています。

アトレ取手　澤村 佳絵

アトレ上野

上野の玄関口がパンダ愛に包まれる。『パンダカーニバル』

アトレ上野では、東京都恩賜上野動物園の双子のジャイアントパンダ「シャオシャオ&レイレイ」への感謝と未来への願いを込め、2026年1月2日から2月28日まで「パンダカーニバル」を開催しました。JR上野駅のガレリア展示スペースを活用し、上野動物園公式写真による成長振り返り展や、園長や飼育係の皆様、お客様からのメッセージを展示したほか、パンダグッズやグルメ販売を展開しました。さらに周辺商業施設との合同SNSハッシュタグキャンペーンを通じて、上野の街を巻き込んだ取り組みへと拡大。期間中、写真展には約2万人のお客様が来場し全国放送のテレビでも放映されるなど、広域集客と地域活性化に繋げました。

担当者VOICE

関係各所のご協力のもと、上野の玄関口を「感謝や希望」で包む施策を実現できました。今後も街とお客様を繋ぐ場を創出してまいります。

アトレ上野　米田 愛里紗

©国連UNHCR協会

第20回 難民映画祭 REFUGEE FILM FESTIVAL
世界を想う。平和を問う。

アトレ各店

お客様と紡ぐ支援の輪『国連難民支援キャンペーン』が13年目に

アトレ各店で実施する、特定非営利活動法人国連UNHCR協会（国連の難民支援機関である国連難民高等弁務官事務所《UNHCR》の活動を支える日本の公式支援窓口）との連携による難民支援募金活動『国連難民支援キャンペーン』が13年目を迎えました。2013年から2024年までの12年間で計86回開催し、約4,400名の方々から累計6億円相当（ご加入いただいた毎月支援額の12ヶ月換算）を超える温かいご支援を賜り、難民援助活動に役立てられています。2025年度は、新たにアトレ6店で計6回のキャンペーンを開催し、170名の方より600万円相当（毎月支援額の12ヶ月換算）のご支援をいただきました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。
また、同協会主催の「第20回難民映画祭2025」（2025年11月6日～12月7日）において、アトレ恵比寿でのポスター掲示やフライヤー配架、デジタルサイネージによるPR動画放映などの広報協力を実施しました。アトレはこれからも、お客様や地域の皆様と共に、難民支援募金活動などを通じて、SDGs（持続可能な開発目標）で掲げる目標16「平和と公正をすべての人に」の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

〈 寄付先からのメッセージ 〉

JAPAN FOR UNHCR 難民を守る。難民を支える。国連UNHCR協会

国連の難民援助活動に協力したい。そのための公式支援窓口です。国連UNHCR協会

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に対して働きかけています。1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。スイス・ジュネーブに本部を置き、約130か国で援助活動を行っています。この国連の難民支援活動を支えるため、広報・募金活動を行う公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。
皆様の温かいご支援に心より感謝を申し上げます。

担当者VOICE

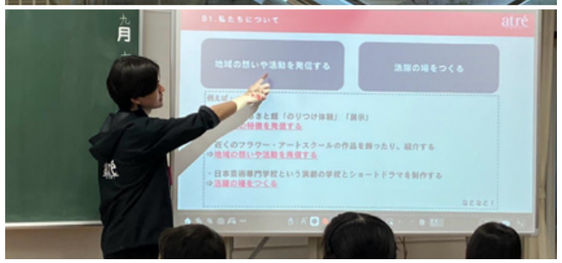
満13年を迎えた支援の輪に深く感謝し、今後も地域の皆様と共に、難民の方々が安心して暮らせる未来への架け橋となってまいります。

総合企画部　朝鳥 沢子

アトレ大森

入新井第一小学校との共同授業『おおたの未来づくり』

アトレ大森では、大田区の教育課程特例校制度に基づく独自科目「おおたの未来づくり」の一環として、2025年7月から10月、12月から2026年3月に入新井第一小学校との共同授業を実施しました。取り組みでは、児童の主体的なアイデアで「未来の大森」への想いを込めたポスターを制作。アトレは、プロの視点で校正やアドバイスを行い、館内の2階ユニクロ前に掲出しました。さらに「アトレ大森のお悩み解決プロジェクト」と題して、「コモリテラス」の認知度向上や親子集客に向け、児童が校内アンケートの裏付けを元に改善案をプレゼンし、POP制作やスタンプカードの考案までを自ら行いました。地元商業施設の実践的なキャリア教育を通じて、児童の主体性を育むとともに、地域住民の来館のきっかけを作り、街への愛着を高める成果を上げました。アトレが子ども世代の視点を取り入れ、街と共に成長するための貴重な共創の機会となっています。



担当者VOICE

小学生と大森のミライを考えられた、本当に素敵なひとときでした！　この交流をきっかけに、より良い大森のミライを共創していきたいと思います！

アトレ大森　光田 顕人

プレイアトレ土浦

みんなが主役になれる、じてんしゃの運動会『BIKELAND土浦』

プレイアトレ土浦では、霞ヶ浦の豊かな自然を舞台に、多様なアクティビティを融合させたサイクルイベント「BIKELAND土浦」を2026年3月14日・15日に開催しました。全20種におよぶ自転車レースに加え、キャンプやカヌー体験、茨城の食を堪能できるブースなど、大人から子どもまで楽しめる多彩なコンテンツを展開しました。2日間で約6,000名が来場し、宿泊需要や地域経済への波及効果を生み出しました。また、地元学生ボランティアや県内事業者と深く連携することで、地域情報の魅力発信とコミュニティの活性化に寄与し、サイクリングを軸とした持続可能な街づくりと、「自転車のまち土浦」のブランディングを強力に推進しています。

担当者VOICE

地域と深く繋がり、土浦の魅力を共に育む本イベントを通じて、持続可能な街づくりの新たなレガシーを創出していきます。

プレイアトレ土浦　新谷 拓

アトレ四谷

自社完結から地域共創へ。上智大生と創り上げる『アトレ四谷35周年祭』

アトレ第1号店のアトレ四谷では、2025年9月27日から10月31日まで、これまでの感謝を伝える『atré YOTSUYA 35th Anniversary はじまりは、四谷から』を開催しました。この取り組みでは、これまでの自社完結型の運営から、街の資源を資産と捉える「地域共創型」への転換を図りました。上智大学の学生23名による実行委員会を組織し、イベント企画やSNS発信、告知物制作などを委ねることで、実践的な「学びの場」を提供しました。アトレ側は学生の柔軟な発想と行動力を得ることで、実質的な人的リソースを大きく拡大することができました。学生のアイデアによる「四谷の街あるきデジタルスタンプラリー」では、周辺の飲食店や文化施設など14箇所を巻き込んで展開。さらに、近隣学校のクラブも参加する「よつやの街の音楽会」も開催しました。単一施設の枠を超え、地域との結びつきを深める持続可能な共創モデルを実現しました。

担当者VOICE

リソース面で妥協せず挑んだ周年祭。学生のパワーと発想に助けられ、共創の力を肌で感じた最高の35日間でした！

店舗オペレーションサポート部　小澤 文音

environment

私たちと未来をつなぐ

環境方針

株式会社アトレは、駅と街を結ぶ多彩なショッピングセンターを展開する商業ディベロッパーとして、地球環境の保全および改善に貢献することが社会的責任であると考え、以下の内容に全社を挙げて取り組みます。

脱炭素社会への貢献

- JR東日本グループの環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ2050」に基づき、グループの一員として、2050年度のCO_2排出量実質ゼロに挑戦します。
- 環境に配慮した高効率機器の導入や運用改善に取り組み、省エネ化を推進します。

サーキュラーエコノミーへの移行推進

- ショップと連携し、当社およびショップが排出する廃棄物の削減とリサイクル率向上に努め、3R（Reduce・Reuse・Recycle）を推進します。資源循環型社会の実現を目指し、協力体制を強化します。

環境意識の向上

- 環境をテーマにした社会貢献活動やイベント等の環境施策に取り組みます。
- 環境意識に関する社内の風土づくりを推進するため、セミナーなどを通じた教育・啓発活動に積極的に取り組みます。

環境目標 2030

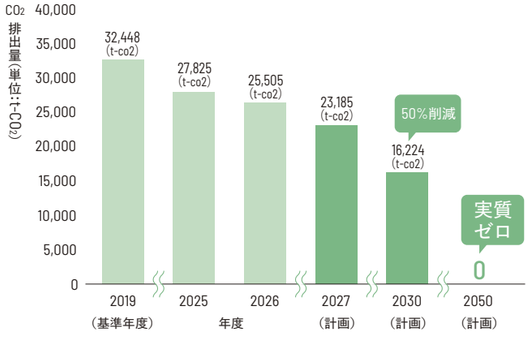
項目		環境目標	具体的な取り組み
脱炭素社会への貢献	CO_2排出量の削減	CO_2排出量 2019年度比 50% 削減	● 再生可能エネルギーの利用拡大
	省エネ化の推進	電気・ガス等の使用量原単位 5年度平均 1% 削減 ※原単位は使用熱量を「延床面積×営業時間」で除したもの ※熱量換算係数を省エネ法に準じた係数に変更 ※環境保全法令の遵守に対応	● 節電の実施 ● 夏のライトダウンの実施（一部の館を除く） ● 環境に配慮した高効率機器の導入や運用改善
サーキュラーエコノミーへの移行推進	廃棄物の削減およびリサイクル率の向上 ※一般廃棄物・産業廃棄物・食品廃棄物・プラスチック	一般廃棄物リサイクル率 100% ※サーマルリサイクルを含む	● ゴミ分別の徹底
		産業廃棄物リサイクル率 100%	
		食品廃棄物最終処分量原単位 2020年度比 50% 削減	● 生ごみ処理機の運用 ● フードロス削減施策の実施
		プラスチック排出量原単位 2019年度比 30% 削減	● プラスチック製品の代替素材への切替推進
環境意識の向上	環境をテーマにした社会貢献活動への参加やイベント等の環境施策の実施		● 衣料品回収活動の実施 ● 地域清掃活動への参加 ● 施策の社内外への情報発信
	環境データの共有やセミナー・啓発活動の実施		● 各店ごとの環境データの共有 ● 社員向けセミナーの実施

JR東日本グループ ゼロカーボン・チャレンジ 2050

JR東日本グループの一員として、CO_2排出量を2030年度までに「50%削減」、2050年度までに「実質排出量ゼロ」を目指す「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」に参画しています。アトレ全店において省エネを徹底し、設備機器における環境に配慮した高効率機器への切り替え、再生可能エネルギーの導入等を計画的に進め、CO_2排出量削減に努めていきます。

CO_2排出量の削減

2025年度は、アトレ大森へオフサイトPPAを新たに導入し、再生可能エネルギーの活用をさらに深化させました。これによりアトレ目黒2・アトレ大井町に続く再エネ導入を推進しています。今後も施策を拡大し、2030年度のカーボンハーフ実現に向け邁進します。



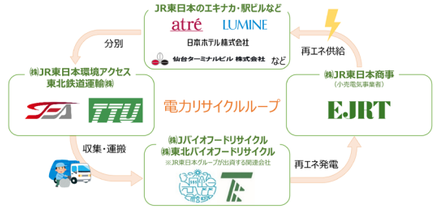
省エネ化の推進

2025年度は外気温が前年より低くエネルギー使用量が抑えられたこともあり、5年度平均原単位は目標未達ながら昨年の1.73%から1.21%へと改善しました。2026年度はさらなる省エネ推進とオフサイトPPAの導入等により、エネルギー使用量原単位5年度平均1%削減を目指します。

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度（計画）
エネルギー使用量（単位：kl）	17,163.14	17,731.67	18,087.35	16,496.88	16,028.25	15,862.0
エネルギー使用量原単位（単位：kl/㎡・h）	10.03	10.44	10.67	9.76	9.46	9.37

電力リサイクルループの実現

2024年6月からアトレ大森で開始している、食品廃棄物を用いた電力リサイクルループを継続しています。排出される廃棄物をJR東日本グループが連携して収集・運搬し、バイオガス由来の電力として同施設で再利用する取り組みです。廃棄物を再生可能エネルギーとして循環させ、CO_2削減と資源の有効活用を恒常的に推進しています。



空調運転スケジュールの最適化トライアル

環境負荷の低減を目的に、アトレ浦和・アトレ吉祥寺で空調運転スケジュールの最適化トライアルを実施しました。店・本社・JR東日本ビルテック（株）が連携し、館内の温熱環境や勤務実態を30分単位で精査。無駄な稼働削減や区画ごとのきめ細やかな温度管理により、快適性を維持しつつ電力使用量を抑制しました。今後はこの知見を水平展開します。

廃棄物排出量の削減と リサイクル率の向上、3Rの取り組み推進

サーキュラーエコノミーへの移行を推進するために、ショップと協力し、3R（Reduce・Reuse・Recycle）の取り組みを実施しています。廃棄物の排出量削減やリサイクル率向上、廃棄物を資源と捉えた再利用の実現を目指しています。

廃プラスチックの資源循環（pool）

レコテック（株）が展開する東京都実装化事業「pool事業」へ参画し、衣料品ショップから排出される軟質ビニールを回収する取り組みにより、廃プラスチックの資源循環を行っています。

● 2025年度実績｜アトレ恵比寿本館：213.4kg、アトレ川崎：714.7kg

フードリサイクルの取り組み（JBiO）

対象店から排出された食品廃棄物が、（株）Jバイオフードリサイクルによって、バイオガスにリサイクルされ、発電燃料として活用されています。

対象店

アトレ恵比寿本館、西館／アトレ目黒1、2／アトレ五反田1、2／アトレヴィ大塚／アトレ大井町、2、大井町トラックス（2026年3月28日開業）／アトレ大森、2／アトレ四谷／アトレ信濃町／アトレヴィ東中野／アトレ浦和／アトレ秋葉原1、2

● 2025年度実績｜1,196,631kg（大井町トラックス除く）

廃食用油リサイクルループへの参画

廃食用油のリサイクルを目的に、（株）JR東日本商事が構築する廃食用油のリサイクルループに参画しています。対象店から排出された廃食用油は、三和エナジー（株）に持ち込まれ、バイオディーゼル燃料として再生・利活用されています。JR東日本グループ内における利活用では、2024年11月より継続して第一建設工業（株）の研修センターで使用する「訓練用軌道モータカー」へのB100燃料使用実験を実施しています。

対象店

アトレ恵比寿／アトレ目黒1／アトレ五反田2／アトレ品川／アトレ大井町／アトレ信濃町／アトレ吉祥寺／アトレ上野／アトレ松戸／アトレ亀戸／アトレ新浦安／アトレ取手

衣類・雑貨の資源循環（PASSTO）

対象店において、（株）ECOMMITが展開する衣類・雑貨の回収ボックス「PASSTO」を設置し、資源循環を行っています。

対象店

アトレ大森／アトレ亀戸

● 2025年度実績｜衣類：2,105kg　雑貨：276kg

廃プラスチックの資源循環（Jサーキュラーシステム）

アトレ恵比寿ほか一部の店から排出される廃プラスチックは、（株）Jサーキュラーシステムに運ばれ、リサイクル原料や新たな化学原料として再生され、資源循環の実現に貢献しています。

アトレ品川

TAKANAWA GATEWAY CITYとの連携による食品廃棄物の資源循環

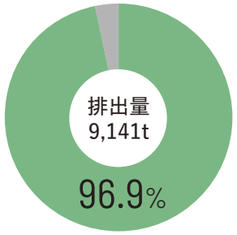
アトレ品川では、2025年7月から2026年3月の間、各ショップから排出される食品廃棄物をTAKANAWA GATEWAY CITY内のビルイン型バイオガス施設へ輸送・再生活用する取り組みを実施しました。食品廃棄物から生成されたバイオガスは、同街区内ホテルの給湯熱の一部に活用され、JR東日本グループ内における資源循環を実現しました。

廃棄物（一般・産業）の削減・リサイクル

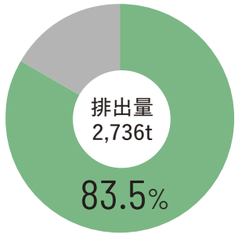
一般廃棄物・産業廃棄物について、排出量・リサイクル率の目標を達成すべく、分別の徹底を実施しています。

●2025年度実績

一般廃棄物リサイクル率（2025年度目標：97.1%）



産業廃棄物リサイクル率（2025年度目標：83.4%）



※サーマルリサイクルを含む

グリーン購入の実践

コピー用紙をはじめとした事務用紙製品は原則として再生紙を購入・使用し、環境負荷低減を図っています。消耗品全般についても、環境への負荷が低い製品を優先して購入しています。

紙資源のリサイクル化

アトレ本社および対象店において、機密書類回収BOXを設置し、不要になった書類の回収を行っています。シュレッダー処理をしていた書類を「安全」に回収して溶解処理を行い、リサイクルを推進しています。

対象店

アトレ恵比寿／アトレ大井町／アトレ大森／アトレ松戸

● 2025年度実績｜928kg

生ごみ処理機の運用

食品廃棄物排出量削減およびCO_2排出量削減を目的として、アトレ吉祥寺に「生ごみ処理機」を導入しています。

● 2025年度実績｜19,640kg

プラスチック排出量原単位の削減

2030年度までにプラスチック排出量原単位30%削減（2019年度比）の目標に対し、2025年度は20.9%の削減となりました。

社内風土づくり、教育・啓発活動

環境担当者会議の開催

アトレ各店の環境担当者が集まり、会社全体および各店の活動データや取り組み状況について情報交換を行う会議を定期開催しています。2025年度も事例共有や課題検討を通じ、環境意識の醸成を継続。会社一丸となって省エネや資源循環を推進し、環境管理体制のさらなる強化を図っています。

エネルギー管理講習の受講奨励

省エネ法に基づくエネルギー使用の合理化等について、必要な知識と技能を習得することを目的に法定講習の受講を奨励しています。2025年度末時点での取得者数は83名となりました。

一関ふるさとの森づくり参加

JR東日本が主催する、生物多様性の保全と森の再生を目指す活動「ふるさとの森づくり」が2025年5月に岩手県一関市で開催されました。アトレもグループの一員としてこの取り組みに賛同し、社員が現地での植樹に参加しました。土地本来の樹種を植える活動を通じ、ESG経営を肌で感じる貴重な機会となりました。今後もグループ全体で連携し、地域に根差した環境保全活動へ積極的に参画してまいります。

アトレ各店

BOND WORKS

ショップとの連携を深めるため、2025年6月よりコミュニケーションツール「BOND WORKS」を導入しました。これによりマルチデバイス対応が可能となり、利便性向上と業務効率化を実現。13種類の帳票電子化を含む業務フローの見直しにより、年間約10万枚の用紙削減を見込んでいます。関係各署の協力により、ショップが販売に専念できる環境整備と、DXを通じた環境負荷低減を強力に推進しています。

アトレ川崎　アトレ新浦安

「こども服の譲渡会」開催

アトレ新浦安・アトレ川崎では、ゼンドラ(株)主催のこども服の譲渡会を2025年10月・2026年3月に開催しました。アトレ新浦安では行政の協力を、アトレ川崎では川崎信用金庫・横浜信用金庫の協賛を得て、駅直結の施設を「地域循環のハブ」として提供。思い出の品を次世代へつなぎ、子育て支援と廃棄削減を同時に実現しました。この取り組みを通じ、地域住民同士の温かな交流を促すとともに、資源を循環させる社会課題解決の場として、さらなる価値向上を図りました。

●取り組みを通じた効果

アトレ新浦安：こども服回収量359.5kg、CO_2削減量 33.102(t-CO_2)、福祉的経済効果 457,463円

(参考値)アトレ川崎：こども服回収量 630.7kg、CO_2削減量 60.825(t-CO_2)、福祉的経済効果 2,672,545円

アトレ新浦安

ADOPTION PARK

アトレ新浦安では、2025年6月4日の「猫をハグする日」に合わせ保護犬猫譲渡会と「猫の推し活」イベントを開催しました。多くのお客様が来場し3匹の譲渡が決定、関連サイトへのアクセス数も大幅に増加するなど保護犬猫への高い関心が伺えました。本イベントは2026年2月22日(ねこの日)にも開催しており、今後も駅直結の利便性を活かした情報発信を継続することで、動物と人との幸せな共生社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

担当者VOICE

施設のCO_2フリー化と資源循環を加速させ、持続可能な社会を実現。アトレとして豊かな環境を次世代へ託せるよう、邁進します。

総合企画部　本橋 かおり

働きがいと生きがいをつなぐ

多様な人々との共生を目指す、JR東日本グループの人権尊重

JR東日本グループの人権推進と基本方針

JR東日本グループは、国連が策定した「ビジネスと人権に関する指導原則」等の国際規範を踏まえ、お客様、地域の皆さま、ビジネスパートナー、社員等すべての人々の人権尊重の取り組みを推進するため、2023年3月に「JR東日本グループ人権基本方針」を策定・公表しました。当社も、同方針に基づき、人権尊重の取り組みを推進しています。

社会インフラを担う企業グループとして、かつ地域の一員として、国内外の法令遵守はもとより、それぞれの地域の文化や地球環境に配慮しつつ、人権を尊重した事業活動を行うことにより、持続可能な社会の実現に努めてまいります。

コンプライアンス強化と人権保護「公益通報制度」

JR東日本グループでは、「法令遵守及び企業倫理に関する指針」に基づき、企業・社会の一員として、取るべき望ましい行動のあり方を、「コンプライアンス・アクションプラン」として定め、あらゆるステークホルダーからの信頼を積み重ねながら、モビリティ・生活ソリューションなどのさまざまな事業分野において、関係法令を遵守し、企業倫理に従って事業を行っています。また、法令や企業倫理に反する行為、人権侵害行為などを早期に発見・是正するため、社内外に公益通報窓口を設置しています。社員が安心して相談・通報できる体制を整備し、研修等を通じてその利用を周知徹底しています。これにより、透明性の高い企業運営を推進し、コンプライアンス意識の向上と人権尊重の企業文化醸成を図ってまいります。

育児・介護の勤務制度を拡充、柔軟な働き方を推進

仕事と育児・介護の両立および柔軟な働き方をさらに推進し、社員の働きがい向上を目的とした制度改正を2025年4月に実施しました。主な内容として、看護休暇の対象拡大や取得事由に学級閉鎖・入卒園式への参加を追加。また、養育休暇と育児短縮勤務の選択制を廃止して併用を可能とし、残業免除の対象を小学校入学までに拡大しました。さらに、育児・介護事由による、「短時間フレックスタイム制」を新たに導入しました。

「対話の森研修」で ダイバーシティとサステナビリティを学ぶ

管理職を対象に、ダイバーシティとサステナビリティの本質を学ぶ研修を昨年に引き続き、アトレ竹芝の『ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森®」』にて、2026年1月に実施しました。視覚を閉ざした暗闇体験を通じて、表層的な多様性にとどまらず、深層的・内面的な多様性への認識を深め、多角的な視点を醸成。また、持続可能な経営の視点から思考力を養い、実践に繋げることで、未来を見据えた経営・事業推進に役立てます。

担当者VOICE

人権尊重を基盤に、研修や制度拡充を通じ多様性を認め合う文化を醸成し、誰もが安心して能力を発揮できる環境を築いてまいります。

総務部　黒沢 優介

お客様の笑顔と満足が生まれる、誰もが心地よい空間づくり

お客様ニーズに基づく サービス向上への取り組み

多様なチャネルを通じてお客様のお声を集め、蓄積・分析することで、潜在的な期待に応えるサービス提供と継続的な改善に努めています。お客様の声に真摯に向き合い、日々のサービス向上を目指します。

くつろぎの休憩スペース

カフェのような椅子と緑を配し、館内の雰囲気に合わせた休憩スペースをご用意。訪れたお客様に、ゆったりと心安らぐ時間をお過ごしいただきたいと考えています。

アトレ吉祥寺

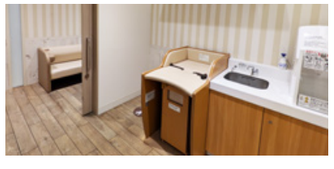
生理用ナプキンの 無料配布サービス「トレルナ」設置

「トレルナ」は、必要とする誰もが、いつでも生理用ナプキンを手に入れられる社会を実現するサービスです。女性用トイレをご利用の方に情報をお届けし、トイレの個室に設置しているディスペンサーと連動することで生理用ナプキンを無償で受け取ることができます。

アトレ浦和

ベビールームをリニューアル

多様化するお客様のニーズにお応えするため、アトレ浦和South Areaのベビールームを2025年10月に改装しました。内装を一新し、明るく、性別を問わないジェンダーニュートラルなデザインを採用。授乳室を個室化することで、搾乳にも対応し、安全性も向上しました。さらに、埼玉県の「赤ちゃんの駅」へ登録・認定を完了し、地域に根差した安心の子育て支援環境を提供しています。



ショップクルー一人ひとりが輝けるショッピングセンターへ

アトレの頂点! 2025年度ベストオブアトレ表彰

売り上げと地域貢献度、お客様からの評価などを総合的に判断し、2025年度アトレ各店のNo.1ショップを選出しました。その輝かしい功績を称え、事業方針説明会にて「ベストオブアトレ」として表彰を行っています。

クルー向け 防火・防災お役立ち動画

もしもの時に慌てないために! 防火・防災の基本と重要動作を習得できる研修動画を制作しました。新人にも分かりやすい短編動画で、スキマ時間に学習可能。「初期消化・通報」はもちろん、「電気火災防止」など、クルー全体の防火防災意識向上を図ります。

担当者VOICE

「また来たい」と思える施設を目指し、お客様にとって快適な環境づくりと働く仲間の笑顔を大切に、多角的な施策を展開してまいります。

運営推進部 CS推進室　関 玲奈

充実した研修制度

顧客視点を重視したCSサポート研修を開催。集合研修ならではの活発な意見交換を通じ、リアル店舗の魅力を磨くための売場づくりと提案力の強化を図りました。ショップの課題解決を促し、さらなる接客力の向上へと繋げています。

アトレ大井町

クルーラウンジをリニューアル

クルーの要望に応え、アトレ大井町RFクルーラウンジを17年ぶりに刷新! クルーからのご意見を踏まえ、席数増を最優先に、短時間でも効率的に休憩できる清潔で快適な空間を目指しました。働きやすさ向上のため、日々忙しいクルーのストレス軽減をサポートします。

大井町トラックス

オールジェンダー更衣室・ トイレの導入

2026年3月にオープンした大井町トラックスでは、従来の男女別更衣室・トイレに加え、誰でも利用可能なオールジェンダーの「みんなの更衣室」「みんなのトイレ」を設置。トランスジェンダーやノンバイナリーだけでなく、身体的理由で広いスペースを必要とする方も快適に利用できるよう、バリアフリー動線と十分な旋回スペースを確保しています。「個」の尊厳を守り、すべてのクルーが自分らしく、心身ともに安全・安心に働ける環境を整備しています。

社員の声や挑戦を支え、一人ひとりが輝く未来へ

社員の声が未来を創る「ホンネ祭」

社員の声を会社が真剣に受け止め、アトレの未来を考える「ホンネ祭（ホンネフェス）」を2025年8月に開催。2025年度は15件もの提言がありました。その中から「社会人採用社員へのメンタリング制度」や「ドナー休暇、災害ボランティア休暇制度」をはじめ9件の提言が実現しました。社員のホンネがアトレの未来を動かす原動力となっています。

「えるぼし認定」の取得

2025年8月、アトレは厚生労働大臣より、女性活躍推進において実施状況が優良な企業に贈られる「えるぼし」最高位の段階3（3つ星）に認定されました。
採用、継続就業、労働時間等の働き方、管理職比率、多様なキャリアコースの5つの評価基準すべてを満たしています。

心身の健康と柔軟な働き方を基盤に、社員のWell-beingを追求

健康経営宣言の策定

社員の心身の健康と自律的な成長が事業の原動力であると考え、「健康経営宣言」を策定、2025年8月に発表しました。具体的な取り組みとして、全店でのフレックスタイム制拡大による柔軟な働き方の推進や、ウォーキングイベントなどの健康増進施策を展開しています。さらに、メンタルヘルス研修の実施やオンライン特定保健指導を通じ、社員一人ひとりが健やかに安心して能力を発揮できるWell-beingな組織づくりに努めています。

担当者VOICE

社員の自律的な成長と健康がアトレの原動力です。心身共に健やかに働けるWell-beingな組織づくりを推進しています。

総務部　江村 祐香

心の健康を守る、メンタルヘルス研修

新任管理職を対象に、メンタルヘルス対策として「レジリエンス研修」と「マインドフルネス研修」を実施。ストレスへの適切な対処法や基礎知識の習得を図りました。社員一人ひとりが心身ともに健康で、安心して活躍できる環境づくりを推進します。

心身をリフレッシュ! アトレウォーキングイベント

運動機会の創出と健康意識向上を目的に、2025年6月・2026年1月にJR東日本グループ共通健康アプリ「キュオリズム」を活用した「アトレウォーキングイベント」を開催。合計41チーム、239名の社員が参加しました。歩くことの楽しさを実感し、健康維持への意識を高めました。

秋の健康測定「ベジチェック」を開催

健康増進施策の一環として、（株）JR東日本商事協力のもと「秋の健康ベジチェック」を2025年11月6日・7日に開催しました。センサーに手を触れるだけで簡単に日頃の野菜摂取充足度を測定できるイベントで、自身の食習慣を見直す契機となりました。

サステナビリティ指標（KPI）

人と街をつなぐ｜society with atré

■地域共創・価値創造

内容	2025年度目標	2025年度実績	達成率	2026年度目標	2027年度目標	単位等
連携協定を締結している自治体・団体数	-	10	-	-	-	
加盟団体数	-	140	-	-	-	
サステナビリティに関連した取り組み・イベント開催数	400	559	139.8%	620	680	回

私たちと未来をつなぐ｜environment with atré

■脱炭素

内容	2025年度目標	2025年度実績	達成率	2026年度目標	2027年度目標	単位等
ゼロカーボン・チャレンジ 2050 CO_2排出量 増減率（基準年度：2019年度）	▲21.3	▲14.2	66.7%	▲21.4	▲28.5	%
エネルギー使用量原単位	9.66	9.46	-	9.37	9.27	kl/㎡・h

■サーキュラーエコノミー

内容	2025年度目標	2025年度実績	達成率	2026年度目標	2027年度目標	単位等
一般廃棄物リサイクル率	97.1	96.9	99.8%	96.9	96.9	%
産業廃棄物リサイクル率	83.4	83.5	100.1%	83.5	83.5	%
一般廃棄物排出量原単位	-	5.40	-	-	-	
産業廃棄物排出量原単位	-	1.62	-	-	-	
食品廃棄物最終処分量原単位増減率（基準年度：2020年度）	▲100.0	▲100.0	100%	▲100.0	▲100.0	%
ワンウェイプラスチック使用量原単位	-	0.07	-	-	-	
ワンウェイプラスチック代替素材等切替原単位	-	0.10	-	-	-	
プラスチック排出量原単位増減率（基準年度：2019年度）	▲21.6	▲20.9	96.8%	▲23.1	▲24.6	%

■環境意識向上

内容	2025年度目標	2025年度実績	達成率	2026年度目標	2027年度目標	単位等
エネルギー管理講習受講者累計数	78	83	106.4%	88	-	人

働きがいと生きがいをつなぐ｜human with atré

■人権／顧客満足・従業員満足

内容	2025年度目標	2025年度実績	達成率	2026年度目標	2027年度目標	単位等
コンプライアンス研修受講率	100.0	100.0	100.0%	100.0	-	%
お客様からいただいたお声の件数	-	983	-	-	-	件
顧客推奨度NPSスコア（JR_商業施設調査）	-	-10.4	-	-10.0	-10.0	スコア
テナント従業員推奨度eNPSスコア（JR_商業設調査）	-	-24.7	-	-24.0	-24.0	スコア

■人材育成・Well-being

内容	2025年度目標	2025年度実績	達成率	2026年度目標	2027年度目標	単位等
所定外労働時間（計画義務）	10	14.3	-	10	-	h / 月
有給休暇取得率（計画義務）	90.0	81.8	90.9%	90.0	-	%
女性採用比率（公表義務）	-	70.6	-	-	-	%
女性労働者比率（公表義務）	-	61.8	-	-	-	%
女性管理職比率（公表義務）	-	36.2	-	-	-	%
男女間賃金差異率（公表義務）	-	73.0	-	-	-	%
男女間平均勤続年数差異率（公表義務）	-	93.0	-	-	-	%
中途採用比率（公表義務）	-	35.0	-	-	-	%
平均勤続年数	-	13.0	-	-	-	年
平均年齢	-	41.1	-	-	-	歳
離職率	-	2.8	-	-	-	%
男性育児休職取得率（公表義務）	-	66.6	-	-	-	%
女性育児休職取得率（JRG公表義務）	-	100.0	-	-	-	%
障碍者雇用率	-	1.63	-	-	-	%
研修受講者率（研修受講者数/社員数）	95.0	94.4	99.4%	95.0	95.0	%
ビジネスマネージャー検定合格者管理職比率	100.0	68.5	68.5%	100.0	100.0	%
ITパスポート取得者率	50.0	14.1	28.2%	17.0	20.0	%
健康診断受診率	-	83.0	-	-	-	%
ストレスチェック受検率	-	77.2	-	-	-	%

※上記データに関する集計範囲は、㈱アトレの直営施設及び直営事業を対象としています。なお、当社が運営管理業務を委託している宇都宮ステーション開発㈱、水戸ステーション開発㈱、高崎ターミナルビル㈱が管理する各施設（パセオ、エクセル、モントレー 等）の数値は含まれておりません。

数字で見るアトレ（2025）

■地域共創と価値創造

with atré

サステナビリティに関連した取り組み
559回

連携協定を締結している自治体・団体数
10

加盟団体数
140

■サーキュラーエコノミーへの移行推進

一般廃棄物リサイクル率
96.9%
※サーマルリサイクルを含む

産業廃棄物リサイクル率
83.5%

■脱炭素

ゼロカーボン・チャレンジ 2050
CO_2排出量 増減率
（基準年度：2019年度）
▲14.2%

■女性の人材育成

女性採用比率
70.6%

女性管理職比率
36.2%

女性労働者比率
61.8%

■育児休職取得率

女性育児休職取得率
100.0%

男性育児休職取得率
66.6%

■人材

中途採用比率
35.0%

平均勤続年数
13.0年

平均年齢
41.1歳

離職率
2.8%

■お客様からいただいたお声

VOICE

983件

■健康

所定外労働時間
14.3h/月

有給休暇取得率
81.8%

健康診断受診率
83.0%

ストレスチェック受検率
77.2%

atré GROUP

宇都宮 PASEO　VAL　Montres 高崎モントレー　AZ 熊谷駅ビル・アズ　E'site　excel

株式会社アトレは、JR東日本グループの商業デベロッパーです。主な子会社には、商業施設の運営サポートや催事事業を展開する「株式会社アトレスティル」、北関東エリアの駅ビルを運営する「宇都宮ステーション開発株式会社」「高崎ターミナルビル株式会社」「水戸ステーション開発株式会社」があります。

株式会社アトレスティル

リソースシェアリングで紡ぐ、アトレの副業支援

アトレスティルでは、アトレ社員の主体的なキャリア形成を応援する副業支援プログラムを展開しています。催事事業の現場立ち合いなどの運営サポートをアトレ社員が担うことで、アトレスティル側は優秀な人材を確保しながら経営効率の向上を推進し、社員側は新たな現場での経験を積むことができる、双方にとって実りある体制を構築。ここで培った経験や知見を本業へ還元し、アトレグループ全体のさらなる価値創造へ繋げます。

高崎ターミナルビル株式会社

高崎モントレー

地域のアトツギ事業者の魅力を発信

群馬県の後継者支援プロジェクト「GUNMAアトツギ部」と連携し、2026年1月・3月に高崎モントレーにて「アトツギマルシェ」を開催しました。地域のアトツギ（後継者）が手掛けるこだわりの食や新規事業の魅力を駅ビルから発信。ひと・もの・ことを繋ぎ、地域経済の持続的な成長と街の魅力創出に貢献しています。

イーサイト高崎

田植え体験から繋ぐ、甘楽町産新米の駅ナカ販売

地元農家と協力した地域活性化の一環として、2025年6月に甘楽町で「親子で楽しむ田植え体験」を開催しました。伝統的なれんげ農法と天日干しで丹精込めて育てた新米は、11月より高崎駅構内の土産店「群馬いろは」にて数量限定で販売。体験を通じた食育と地域の食文化発信を推進しています。

アズ熊谷

駅の商店街「装う“so”」から広がる沿線連携

新たな地域拠点「装う “so”」を起点に、JR高崎線沿線のコミュニティを共創。誰もが低リスクでビジネスに挑戦できる“駅の商店街”は、JR高崎支社が沿線展開し、本庄デパートメントが場づくりを牽引。高崎ターミナルビルが駅ビルでの実装、JR東日本スタートアップが事業支援を担います。各者の強みを活かし、持続可能な地域創生を推進しています。（※2026年5月23日開業）

宇都宮ステーション開発株式会社

宇都宮パセオ

宇都宮線140周年
角打ち（地酒）イベント

「パセオ」が位置するJR宇都宮駅改札外にて、宇都宮線開業140周年を記念した「マルシェ&ちょい飲みスタンド（駅角）」が2025年7月に開催されました。沿線酒蔵の記念純米吟醸や限定ラベルのクラフト生ビール、栃木の多彩な地酒が集結。駅での特別な角打ち体験を通じ、沿線の豊かな食文化を発信しました。

VAL古河

就労継続支援B型事業所
「リハスワーク古河」

「リハスワーク古河」は、駅を暮らしの拠点にする構想のもと開設された就労継続支援B型事業所です。ヒバ素材を活用した自社商品の製造や企業連動の軽作業を実施。医療福祉の専門職が一体となり、強みを活かした工賃向上や一般就労へのステップアップを支え、「福祉が地域を支える社会」を目指しています。

VAL小山

白鷗大学茶道部による
お茶会を開催

白鷗大学茶道部「茶楽」と連携し、2025年4月に小山駅改札内とVAL小山の館内で立礼式のお茶会を開催しました。観光客向けのお茶挽き体験や、学生が主となる茶席を通じて地域の方々へ気軽に抹茶と和菓子を楽しめる場を提供。日常の場で伝統文化に親しむ機会を創出し、駅を拠点とした温かい地域コミュニティを育んでいます。

水戸ステーション開発株式会社

水戸エクセル

チャレンジで広がる！
「にこにこマルシェ」

2025年12月に茨城大学の学生団体「水戸市から地域活性化プロジェクト」と共催で、子ども向けイベント「チャレンジで広がる! にこにこマルシェ」を開催。はじめてのおかいものや子ども店長ワークショップなど、子どもたちが挑戦を通じて街の魅力に触れ、自己肯定感や探究心を育む場を提供。大学生が架け橋となり、地域への愛着形成や将来のUターン促進に繋がる、持続可能な地域活性化を目指しています。

エクセルみなみ

食と人を繋ぐ
「MITO RUTSUBO」がオープン

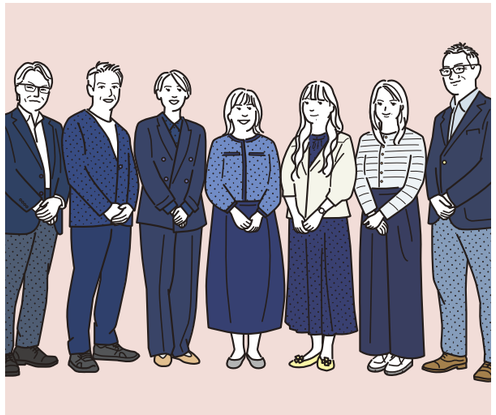
水戸ステーション開発の直営店「The Natto & Bar MITO RUTSUBO」が2026年3月エクセルみなみ3Fにオープン。昼は水戸名産納豆定食、夜は地酒と県産のおつまみを提供し、茨城の食の魅力を発信します。人々の交流を促すコミュニティバーとしての役割も担い、出会いと繋がりを創出する場を目指します。

水戸エクセル・エクセルみなみ

「クーリングシェルター」
に指定

熱中症対策の一環として水戸市と協定を結び、エクセルおよびエクセルみなみを「クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）」として2025年8月より、施設の一部を開放しています。猛暑の際に誰もが気軽に立ち寄り、涼める休憩スペースを提供。駅ビルという日常の場を活かし、地域の健康と安全な暮らしを守る役割を果たします。

Editor's note



未来へつなぐ、アトレのサステナビリティ
～地域と人に寄り添い、地球と共に歩む～

本レポートでは、アトレが「社会」「環境」「人」を軸に展開する多岐にわたる活動を紹介しました。地域社会との連携、環境負荷低減への挑戦、そして多様な人材が輝ける職場づくり。一つひとつの取り組みに込められた想いが、アトレの未来を照らし、持続可能な社会への確かな一歩となることを願っています。今後も皆様と共に、より良い明日を創造してまいります。

《サステナビリティレポート編集委員》
アトレのサステナビリティを推進する本社メンバーで構成されています。
総　務　部　　麻生 恭一
運営推進部　　小林 延江
開発企画部　　田立 博文
総合企画部　　朝鳥 沢子、鈴木 康一、大谷 秀美、本橋 かおり

atré
2025年度サステナビリティレポート
2026年6月発行
対象期間｜2025年4月～2026年3月
https://www.atre.co.jp/company/

株式会社アトレ
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4丁目1番18号　恵比寿ネオナート6F